

野の仏ギャラリー③

文殊菩薩坐像

東多久町高德寺

蓮華台に載り、幼顔ですが口元を引き締め、落ち着いた表情を見せています。光背に頭光が彫られ、頭部に三角形の装飾を有する宝冠を戴いています。右手に知恵を象徴する剣(智剣)、左手には経巻が載せられた蓮華を持っています。この像は十三仏の一体として造立されています。銘「杵島三坑 世話人 一力藏 崎島唯次郎」



多久市郷土資料館長 藤井伸幸

○菩薩は悟りを開く前の修行中の者を称します。
○近くに「十三佛建立記念」と刻まれた碑文があり、昭和七年五月に建立されたことが分かります。

今月の論語

来者の今に
如かざるを知らんや

若い者は努力すれば将来は、今の人以上に立派な人になるであろう。

今月の福宅放送は、東原庵中央校9年 大田麻悠さんです

教育長コラム

ちよっとい話



「傘」

待ち遠しくて、指折り数えて待った帰省。当時の養護学校は寮が主流だった。その養護学校の児童が、帰省から戻ると元気がない。ホームシックだと思いい励ましていたら、「ううん、僕を誰も待っていない。玄関に家族の傘が、父・母・弟…と、順番に一列に並んでいたけれど、自分の分は飛ばされていて傘が無かった。歯ブラシも家族分きれいに並んでいたのに自分のだけ無かった。僕には帰る家が無くなった。」

「ご家族も、きつと楽しみにして待ってくださって、掃除して下さっていただけだるうに、通常がない故にうっかりされたのらう。しかし、このうっかりが、この子にはとてもこたえた。」

「あなたは必要な存在なのだ」というメッセージを、大人が子どもに確実に伝えるようになりたいなあ。10代の若者が最も多く自死する日(9月1日)が近づいた。

教育長 田原優子

市民文芸

◆ 昼見しとひと味違う紫陽花の花
花を見ており月のさす庭
川浪 信子

◆ 夏座敷 百年余りの時流る
並ぶ遺影を 仰ぎ佇む
浦野 嘉恵

◆ 球根を植えし百合花 咲き揃う
令和の空を 仰ぎ見ること
梶原恵美子

◆ 人前で自分の夢を話せない
その現実を打破する命
野崎 隆幸

◆ 人間を愛する人の 演説だと
心の底が揺さぶられている
尾形 節子

◆ 診察の窓開けてあり柿若葉
虎尾草の手にやはらかき夕べかな
中嶋 清子

◆ 端居して得意に話す子のデート
武富 律子

◆ 雨よ雨歩みを忘る蝸牛
本村 則子

◆ 振鈴の四方に広がる青葉山
倉成 皓二

◆ 甘党を断念させた血糖値
富樫 明美

◆ お茶の友話し上手に聞き上手
中尾 和弘

◆ 能力は無くても大望捨てられず
高塚ちかこ

◆ 処世術 出世街道まつしぐら
西山 残月

◆ 蚊が止まる吸われる前に
田中 正春

川柳 《多久川柳会 互選》

俳句 《互選》

短歌 《麦の芽短歌会 互選》